

別紙様式 1

令和 4 年度昭和中学校区研究推進計画

校番 (2 4) (呉市立昭和中央小) 学校

校長名 小野 結実

- 1 学校教育目標
自ら伸びる みんなで伸びる
- 2 目指す児童生徒像
 - ・学習や体験したことを生かして学ぶ児童生徒
 - ・自ら考え、判断し、自分の言葉で表現する児童生徒
 - ・自他を大切にし、自らかかわり合う児童生徒
- 3 育成を目指す資質・能力 (具体の姿)

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・協働する力
後期	現実の課題や新たに生じた課題等を解決するための、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けている。	多面的・多角的に考察し、論理の展開の仕方や表現の仕方などを工夫して、効果的に表現することができる。	目標を明確にし、課題解決に向けて、見通しをもって、協働的に取り組み、学びを自己の生き方につなげることができる。
中期		複数の事柄や資料などを関連付け、根拠をもとに、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	自ら課題意識をもち、多様なメンバーと協働して課題を解決しようとし、学びの価値を考えることができる。
前期 (中学年)		自分の立場や考えを明確にし、複数の事柄や資料について、比較、分類、関連付けてまとめて表現することができる。	課題解決のために身近な対象に進んで働きかけながら、ねばり強く取り組み、その成果から自分のよさや可能性に気付くことができる。
前期 (低学年)		自分の思いや考えを明確にし、複数の事柄や資料について、比べたり分けたり、例えたりして順序よく説明することができる。	家族や友達、地域の人など身近な対象に進んでかかわり、意欲的に学習したり、生活したりして自分のよさや可能性に気付くことができる。

4 研究主題等

(1) 研究主題

「自他を大切にし、主体的に学ぶ児童生徒の育成」
～「考える授業づくり」と「あたたかい集団づくり」を通して～

(2) 設定理由 (校区の児童生徒の課題分析等)

本中学校区では、平成 3 0 年度から「自他を大切にし、主体的に学ぶ児童生徒の育成 ～ 聴いて考えてつなげる授業づくりを通して～」を研究主題として、学力向上と自尊感情を高める実践を重ねてきた。また、令和 2 年度には、副題を「～『考える授業づくり』と『あたたかい集団づくり』を通して～」に変更し、あたたかい聴き方ややさしい話し方を通して、児童生徒が安心して学び合う授業づくりや、互いに認め合い、高め合うことができる人間関係づくりの両面から研究に取り組んでいる。

児童生徒アンケート（令和3年度実施）の設問項目に対する肯定的回答は「授業中、友だちの考えや意見をよく聴いています」94.6%（前年度比+0.1pt）、「授業中、自分の考えや意見を分かりやすく説明しようとしています」84.7%（前年度比+1.3pt）、「あなたのよいところを分かってくれる友だちがいます」93.2%（前年度比+2.9pt）、「自分には良いところがあります」87.1%（前年度比+4.9pt）であった。この結果から、これまでの取組により、相手の考えを聴こうとする意識や自己有用感が一層高まってきていると言える。

また、授業中においても、肯定的に他の児童生徒とかかわり合う姿や最後まで粘り強く課題に取り組む姿も多く見られるようになってきた。ただし、各学級数名ほどかかわり合いの中に加わらなかつたり粘り強さが見られなかつたりする児童生徒もいる。

一方で、全国学力・学習状況調査（令和3年度実施）において、差は縮んできているものの、依然として全国平均より下回っている。小中学校ともに正答率が向上傾向の領域もあった（国語B書くこと、算数C変化と関係・数学C関数）が、特に中学校において多くの領域で全国平均との差が広がった。

標準学力調査において、正答率30%未満の児童の割合が5%を超えた学年は、国語では6学年中2学年、算数では6学年中3学年であった。正答率30%未満の生徒の割合が10%を超えた学年は、国語では3学年中1学年、数学では3学年中3学年であった。また、国語において、9学年中4学年、算数・数学において、9学年中7学年で全国平均を下回った。この結果から、依然として多くの学級で基礎的・基本的な知識や技能の定着が不十分な児童生徒が一定数存在していると言える。

また、多くの学年で観点別正答率が全国平均を下回っており、知識・技能についても、思考力・判断力・表現力についても課題があるといえる。

以上のことから、本中学校区の児童生徒に共通する実態として、①「基礎的・基本的な知識や技能が身に付いていないため、自分の考えがもてない。」、②「自分の思いや考えを自分の言葉で表現する力が乏しい。」、③「主体的に取り組みにくく、受け身になりやすい児童生徒がいる。」という3つの課題が上げられる。

(3) 研究仮説

本年度も引き続いて研究主題を「自他を大切にし、主体的に学ぶ児童生徒の育成」と設定し、「考える授業づくり」や「あたたかい集団づくり」を創造することで、児童生徒が主体的に参加し互いの意見を尊重し学び合う授業となり、課題が克服できると考えた。そのために、児童生徒の気づきを大切にした課題の設定や個に応じたきめ細かな指導により、全員が参加できる授業を目指す。また、相手を意識した聴き方や話し方の指導や児童生徒をほめる場・認める場の意図的な設定により、互いに認め合い、高め合うことができる人間関係づくりをしていくことが重要と考える。

全員が参加できる授業を実現することで、学習への達成感が得られ、学習意欲向上につながると考える。また、児童生徒が互いに認め合い、高め合いながら授業を進めることで学力の定着が図れると考える。以上のことから、児童生徒が主体的に参加し互いの意見を尊重し学び合う授業を創造することで、本中学校区で設定した資質・能力の育成に迫ることができると考え、本研究主題を設定した。

5 研究内容

(1) シンキング部会

○知識・技能を活用して、主体的に思考・判断・表現する児童生徒の育成。

- ・「昭和学びのスタイル」を通して、全員参加作戦を実施する。
- ・見通しをもって学習に取り組めるように、「学びのレシピ」を活用する。
- ・「単元を貫く問い」をもとにした単元構成を行う。
- ・教科会を実施し、小中の教職員で授業改善を図っていく。

(2) ヒューマン部会

○肯定的に他者と関わり合い、最後まで粘り強く取り組める児童生徒の育成。

- ・教師がほめる場・認め合う場・つなげる場を意図的に設定し、児童生徒が分からないことや

間違えることを躊躇せず発言できる環境づくりに取り組む。

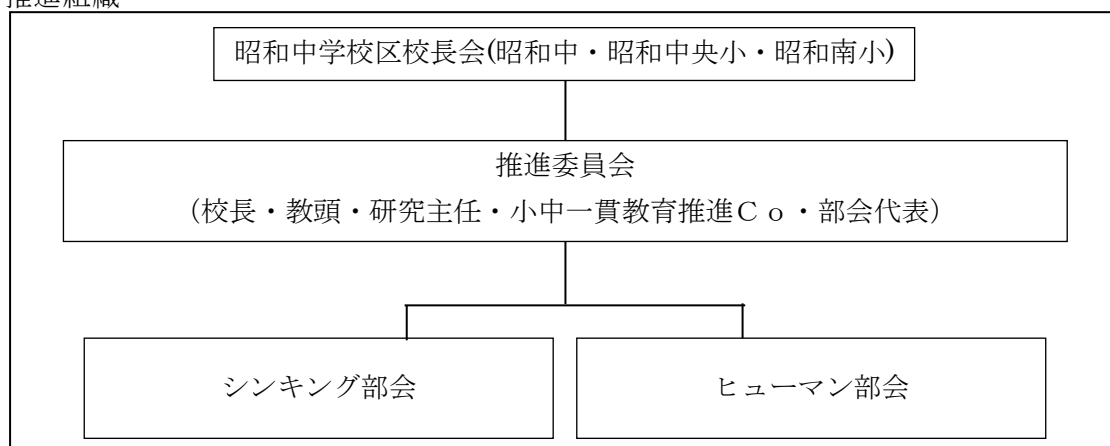
- ・各教室に「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を掲示し、相手を意識した聴き方と話し方の指導を徹底する。
- ・道徳の授業を中心に、肯定的に他者とのかかわり合う雰囲気を醸成する。
- ・小中合同での活動を計画・実施し、児童生徒同士のつながりを深め、自己有用感を高める。
- ・地域人材を積極的に活用し、地域社会に関わり貢献しようとする態度を育てる。

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 学力調査等において、正答率30%未満の児童生徒の割合	標準学力検査	小学校では国語・算数5%以下 中学校では国語・数学10%以下	小学校 4.9% 中学校 18.4%	小学校では国語・算数5%以下 中学校では国語・数学10%以下
② 児童生徒の行動や記述内容の変容	児童生徒アンケート	「課題に対する粘り強さ」に関する質問項目	86.7%	90%
③ 児童生徒の学習や他者とのかかわり合いに関する意識の向上	学校評価アンケート	(1)「聴く」に関する質問項目 (2)「話す」に関する質問項目 (3)「他者とのかかわり合い」に関する質問項目 (4)「自己有用感」に関する質問項目	(1) 94.6% (2) 84.7% (3) 93.2% (4) 87.1%	(1) 95% (2) 80% (3) 95% (4) 90%

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等 (中→小, 小→中)

(中→小)

- ・昭和中央小学校第5学年 算数科 (週2h実施)
- ・昭和中央小学校第6学年 算数科 (週2h実施)
- ・昭和南小学校第5学年 算数科 (週2h実施)
- ・昭和南小学校第6学年 算数科 (週2h実施)
- ・吹奏楽部による演奏会 (2学期実施)
- ・小6児童の把握と指導 (3学期実施)

(小→中)

- ・中学校第1学年補充授業（夏季休業中）
- ・小6中1交流会（3学期実施）

イ 小学校教科担任制等

- ・なし

8 推進計画

月 日	内容		
	昭和中	昭和中央小	昭和南小
4月	○校内研修 ・昭和中学校区の取組の 確認	○校内研修 ・授業研究、校内研修の 確認	○校内研修 ・昭和中学校区の取組の 確認 ・授業研究、校内研修の 確認
	○協議会 ・今年度の取組の確認		
5月	○校内研修 ・学習評価について	○校内研修 ・QUについて ○QU実施	○校内研究授業 (6年) ○QU実施
6月	○QU実施	○校内研究授業 ○校内で見せ合う授業 週間実施	○校内研究授業 (2年) (5年)
7月	○児童生徒アンケートの実施		
	○校内研修 ・学習評価について	○校内研修 ・学習評価について	○校内研究授業 (3年)
	○授業研究・全体研修(昭和中学校) ○協議会 ・夏季全体研修会の運営についての確認		
8月	○校内研修 ・QUの分析	○2学期の取組の具体 的案 ○校内研修 ・QUの分析	○校内研修 ・全国学力の考察 ・前期授業研究のまとめ ・児童アンケートの考 察
	○全体研修(昭和中央小学校) ・教科会(国語・算数・理科・質問紙) ○協議会 ・9月全体研修会の運営についての確認		
9月	○校内授業研究		○校内授業研究 (4年)
10月	○校内研修	○校内で見せ合う授業 週間実施	○校内授業研究 (1年) ○QU実施
	○授業研究・全体研修(昭和中央小学校)		

11月	○校内研修	○地域公開（道徳） ○校内授業研究（3年） ○QU実施	○校内授業研究 （特別支援学級）
12月	○児童生徒アンケートの実施		
	○校内授業研究	○標準学力テストの実施 ○QU結果の分析	○標準学力テストの実施 ○校内研修 ・全体研修の指導案検討
	○協議会 ・1月全体研修会の運営についての確認		
1月	○授業研究・全体研修（昭和南小学校） ○協議会 年度のまとめに向けて進捗状況把握		
	○校内研修	○校内授業研究（2年）	
2月	○校内授業研究	○標準学力調査の分析・考察 ○研究のまとめ作成（成果と課題）	○標準学力調査の分析・考察
	○児童生徒アンケート及び標準学力調査の結果の交流		
	○小6中1交流会		
	○協議会 ・課題の分析と来年度の取組についての確認，全体研修の資料の確認		
3月	○小6児童の把握と指導	○次年度の研究計画の策定	○校内研修 ・1年間のまとめ
	○全体研修（昭和中央小学校） ・年間のまとめ，来年度の基本方針及び計画の確認		

※コーディネーター会は協議会を受け，随時，連携を図る。

※各校の研修会には，随時参加する。

9 その他

小中一貫だよりの発行（学期に1回）

※ 研究構想図，カリキュラムマップを添付する。